

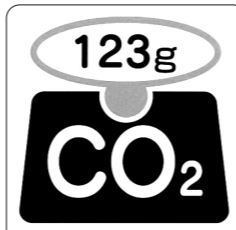
### 製品グリーンパフォーマンス高度化推進事業

低炭素社会実現に向けての国を挙げての活動の一つ、「カーボンフットプリント制度」。

統一マークも決定し先日公表され、12月開催された「エコプロダクツ2008」の大きな目玉の一つとなりました。従来、「品質」、「価格」、「納期」が「広義の品質の3要素(QCD)」として解釈されてきました。この制度は、それに「CO<sub>2</sub>排出量」が加わることを意味しています。同じ美味しさ、同じ価格、同じ賞味期限ならより環境負荷の小さいものを!という消費者ニーズに対応するには、環境負荷を定量的に値札や原材料表示、と同様に示すことが必要となります。このマークが、消費者の大事な選択基準の一つとして多くの商品に表示される日もそう遠くはありません。

環境会議所東北は昨年度より、経済産業省や(社)産業環境管理協会が推進している「製品グリーンパフォーマンス高度化推進事業」の東北地域の拠点機関として、「LCAや環境配慮設計のアドバイスやコンサルティングサービス」を提供し、ご好評をいただいております。CO<sub>2</sub>排出量の算出や削減について、お気軽にご相談お問い合わせください。

お問合せ TEL.022-218-0761  
担当:山下



▲カーボンフットプリント統一マーク



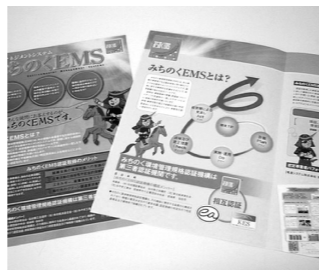
### 「みちのくEMS」パンフレット、チラシ、ポスターリニューアルしました。

事務局では「みちのくEMS」のパンフレット、チラシ、ポスターを一齐にリニューアルし構築クライアントの皆様へ一齐に送付をさせて頂きました。パンフレットの内容はシステムの概要や取得によるメリット、構築に係る料金、構築運用フロー等が一目で分かるグラフィカルな構成です。ポスターは取り組みのPR等にもお使い頂けます。パンフレット他の送付を希望される方はお問い合わせください。

最近では製造業の事業者から構築に関するお問い合わせが多くなってきております。各種メーカーのグリーン調達に対応でき、構築事業者と評価員・事務局とのパートナーシップで環境に関する継続的な改善をしていくことが最大の特徴です。

また、昨年好評だった認証取得事業者のセミナーと交流会の開催も予定しておりますのでご期待ください。今年も取組事業者のさらなる拡大をめざしてまいります。今後とも当システムをよろしく願います。

みちのくEMSの詳細を聞きたい!  
我が社でも導入を検討したい!という方、ぜひ事務局にご相談ください!  
お問合せ TEL.022-772-6371  
担当:高田



### グリーン購入シンポジウム開催

「グリーン購入シンポジウム」は平成20年11月21日(金)エルパーク仙台(ギャラリーホール)で開催しました。基調講演をされた東京大学大学院平尾雅彦教授(ライフサイクル工学専攻)は全国GPNの副代表です。「グリーン購入は入り口であり、環境負荷の少ない使い方、処分の仕方まで考え行動して行こう。今地球温暖化に対して行動しなければ、私たちの子孫は生活できなくなる」と熱く話されました。続いての講演は、環境省総合環境政策局環境経済課の原田課長補佐です。原田氏は国土交通省で建築の分野から環境省に移られました。環境問題の現状を把握すればするほど、グリーン購入法等に示す環境経済の政策や、逼迫している地球温暖化をいかにして止めるかを使命として、国土交通省には戻らな

い覚悟で取り組んでいると語っていました。(詳細はホームページに掲載 <http://www.miyagigpn.net>)

地球を良くするのも悪くするのも、私たち一人一人の行動が鍵を握っています。持続可能な社会にしていけるために実態を知る!よく考える!行動をする!みやぎグリーン購入ネットワークはこれからも皆様とともに普及啓発に取り組み活動していきます。人の輪、環境の環を広げる事がキーポイントです。さあ、一緒に行動していきましょう!



### 新入会員をご紹介します。(敬称略)

- 日本ビルコン東北株式会社 <http://nbtohoku.co.jp>
- 有限会社 仙台福祉清掃社

### 発行・編集 NPO法人 環境会議所東北

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈三丁目10-6  
TEL.022-218-0761 FAX.022-375-7797  
E-mail [kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp](mailto:kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp)  
URL <http://www.kk-tohoku.or.jp>

### 編集後記

アツという間の首相交代、アツという間の原油高騰、アツという間の金融不況、アツと言う間の地球環境劣化、アツと言う間に2009年を迎えた。「エコプロダクツ東北」「みちのくEMS」「グリーン購入ネットワーク」「製品グリーンパフォーマンス高度化推進事業」をツールとして実態経済に促した解決策を示せるNPOに進化したい。地球に残るのは強いものでも賢いものでもない「進化するもの」である。ダーウインの言葉です。(典)



THE TOHOKU CHAMBER OF ENVIRONMENT

# 環境会議所東北会報

2009.1  
NO.23

謹賀新年

### 今月のメニュー

- エコプロダクツ東北 2008を終えて
- 第8回 環境甲子園
- エコプロダクツ東北 2009開催概要(案)
- 環境会議所東北会員紹介
  - 株式会社サン道路サービス
  - 日本ビルコン東北株式会社
  - 明興防水株式会社
- 製品グリーンパフォーマンス 高度化推進事業
- みちのくEMS
- みやぎグリーン購入ネットワーク
- 新入会員紹介
- 編集後記

## エコプロダクツ東北2008を終えて

「エコプロダクツ東北2008」(10月9日~11日・夢メッセみやぎ)にご来場・ご出展・ご支援をいただき誠にありがとうございました。3日間で3万4千人余の皆様にご来場いただきました。今年初めて企画されたクイズラリーでは、出展ブースに解答ヒントがあることから偏りのないブース誘導ができました。

屋外会場の、燃料電池自動車やプロカー、昭和年代のバス試乗会などの体験イベントが人気を集めました。会議棟においては、廃棄物学会東北支部の研究発表会や、専門家講師を招いての環境経営セミナーが開催されました。

環境科学教室では1,500名余の生徒が8教室に参加、学校では学ぶことの少ない分野の実験に興味深く学習しております。

アンケートによると、出展者からは商談に結びつく話ができ、来場者からは商談だけではなく企業の環境配慮経営の姿勢を把握する事が出来た、との回答を得ました。「環境意識の高い出展者と来場者が一堂で交流する環境展示会」との評価をいただきました。

環境問題は今世紀最大の課題であるとともに、その解決に向けた取組は企業・市民を問わず不可欠となっています。環境と経済が両立する社会の発展を目指し、より多くのビジネスチャンスをご提供できるようこれからも取り組んでまいります。



会場の様子



水素と酸素で走り、水しか排出しない燃料電池自動車



セントラル自動車(株)による環境科学教室

## 環境甲子園

環境甲子園表彰式

### 第8回 環境甲子園



第8回を迎えた環境甲子園は、回を重ねるごとに内容が優れたものになっております。今年は優秀賞が2作品と特別奨励賞1作品でした。

優秀賞は石巻工業高等学校です。石巻地域の処分に困っている牡蠣殻を有効利用し、持続可能な社会づくりに挑戦しています。これまでの研究開発や取り組みを「産・官・学」が連携して商品化を目指す事となりました。もう1作は、柴田農林高等学校です。野生9種のひとつに数えられる東北地域では初の発見とされている「大峰桜」の保存です。バイオテクノロジーを駆使し苗を育て、セツ宿町に花を咲かせようと取り組んでいます。町との連携で過疎化する町に夢と希望を与え、潤いある町づくりにと継続した取り組みをしています。

特別奨励賞は、寮の食堂から出る廃食油を活用して、エネルギーの地産地消に取り組んだ加美農業高等学校です。いずれも持続可能な次世代へつなげようと頑張っている取り組みは素晴らしいものであり今後の継続を期待しています。今年は有限責任法人DODO資源研究所と三井環境基金の助成の協力によって開催しました。これからも多くの方々に参加していただき、未来への夢と喜びを共有していきましょう。

## お知らせ

### エコプロダクツ東北 2009開催概要(案)

会期 平成21年10月15日(木)、16日(金)、17日(土)  
会場 「夢メッセみやぎ」展示棟、屋外展示場、会議棟  
主催者 NPO法人環境会議所東北  
共催 (社)産業環境管理協会、日本経済新聞社(予定を含む)  
協賛 (財)みやぎ産業交流センター、東北大学工学研究科創造工学センター、(財)産業技術総合研究所東北センター、環境省東北地方環境事務所、農林水産省東北農政局、国土交通省東北地方整備局(予定を含む)  
テーマ 「いのちはくぐむエネルギー」(仮)  
目的 あらゆるエネルギーについての学び  
内容 出展企業ブース(新エネルギー省エネルギー創エネルギープロダクツゾーン)  
○環境科学教室 ○エコプレゼンステージ(出展企業の運営)  
○環境セミナー(各それぞれが主催事業を行う)  
\*環境省関連セミナー(炭素化社会、カーボンオフセット・カーボンフットプリント)  
\*経済産業省関連セミナー(売れるものづくりとは、環境経営セミナー)  
\*暮らしのエネルギー(住まいのエネルギー、食のエネルギー、衣服のエネルギー)  
\*食の安全 \*海外の環境最新情報

入場料 無料

来場者対象/企業経営者、企業の購買部門、環境管理部門、製品・商品開発部門、経営戦略部門、社会貢献部門など、自治体・官公庁の地域振興部門、購買部門、環境部門など各業界団体地域産業・商工団体など一般消費者(ファミリー層、主婦)、学生、小中学生、環境NPO団体、市民グループ、環境に関心のある方

出展規模/150社 220小間

2008実績/120社 187小間 来場者数34,000名

## 会員 企業 紹介

### 株式会社 サン道路サービス 代表取締役社長 佐藤 三繼氏

〒983-0821 仙台市宮城野区岩切今市東236  
TEL. 022-255-5577

従業員20名 創立/昭和59年3月 資本金/1,000万円

サン道路サービスは、仙台市、青森市、旭川市に拠点を置き、道路整備と、道路の標識・区画線・防護柵・環境整備など交通安全施設の施工、安全な駐車場の施工のほか、関連する保安用品のレンタル事業も行っている。

主業務である道路部門では、国・県・市町村道の維持、改修、舗装工事など、公共事業で多くの実績を重ねており関係機関から頼られる存在。しかし、宮城県内には同業他社が40~50社もあって老舗企業でも倒産する企業があるなど厳しい状況が続いているという。

そんな中、同社が近年『SANPACO(サンパコ)』のブランドでつくる、美しく機能的な駐車場のリメイク事業が好調だ。これは個人住宅からアパート、大規模商業施設の駐車場整備などの民需を中心に、公共施設の駐車場など、駐車場の新設やリメイクを含め、より安全な駐車場づくりに取り組むもので、受注も大ききのびているという。「当社もおかげさまで創立25年を迎えることができました。以前は道路関連の公共工事專業だったのですが、SANPACO事業部がもう一つの柱となり、伸びも好調でうれしい限りですね」と佐藤三繼社長。

“道路・交通安全”を守る施設の整備は、技術と経験がモノをいうだけに「若い人ばかりではなく、年季の入った人の仕事を大切にしています」という佐藤社長だ。

また、そうした仕事柄、“環境への対応”はいずれ避けて通れないと、業界でも早い段階で“みちのくEMS”を認証取得した。「当初、若い社員にはそうした意識も少なく、浸透させるのに苦労しました(笑)」というが、今では工事現場や社内ゴミの徹底分別・リサイクルはもちろん、電気、コピー、石油などの使用を減らす活動に取り組んでいる。さらに地域貢献として、「県民の森」の定期的清掃奉仕も行っている。「昨年から毎月1回、金曜日午後5時に手の空いている社員を中心に、3時間ほど掛けて道路の清掃…空きカンやゴミ拾いを行っています。もう10回くらいですか。グリーン購入なども大事なことで、まずはできることから、それを続けることが大切だと思いますね」。

地域生活に密着した仕事だからこそ、仕事の中でコツコツと取り組みを続けること。サン道路サービスのような姿勢の企業がどんどん増えて、はじめて環境・循環型社会の形成が進むのだろう。



県民の森清掃ボランティアに取り組むサン道路サービスの皆さん

## 会員 企業 紹介

### 日本ビルコン東北株式会社 代表取締役社長 佐藤 眞氏

〒981-3121 仙台市泉区上谷刈二丁目6-36  
TEL. 022-373-7666

従業員86名 創立/昭和62年10月 資本金/5,000万円

発展を続ける仙台市泉区・地下鉄泉中央駅からほど近い、上谷刈に社屋を構える日本ビルコン東北(株)は、空調・自動制御・給排水衛生設備の設計施工、ボイラー・エアコンの保守・修理・メンテナンスの専門企業だ。東テック企業グループの一員として東北エリアを担当、各県に営業所を開設している。

「東北地方では、やはり仙台市に関連業者が集中していますが、我が社は中堅というところでしょうか。この業界は長期にわたって厳しい風が吹いていますが、当社は独自のお客先開発に力を入れることで、少しずつ発展を続けてまいることができました」と佐藤眞社長。「いわゆるゼネコンさんのようなネームバリューがありませんので、ビッグプロジェクトの業務獲得より、むしろ小さなお得意先様に対して“小回りのきいた、親切・丁寧なサービス”をさせていただくことで、ご信頼をいただき、成長できていると自負しております」という。

グループの総合力を生かして、多様なニーズに的確な対応をするとともに、きめ細やかな施工・保守サービスを全員が心掛けることで、東北6県の市区町村や県など自治体庁舎を始め、学校、病院などの公共機関、もちろん各種商業・オフィスビルや一般企業の工場等の空調設備…など、多種多様な得意先を抱え、安定した取り引きを行っている。

同社は、現在“みちのくEMS”認証取得のために社内体制を整備中だ。都市空間と環境に関わる業務を行っているだけに、一般的な目標に加え、独自の環境貢献ができないものか…と若手を中心に社内でアイデアを出し合っているという。「みちのくEMS認証への取り組みで、大きな効果が出ていると感じられることは、社員一人ひとりの環境対応の意識が大きく変わりつつあるということ」というのは管理部で認証作業の中心となっている木村課長。「ものにやさしい、ひとにやさしい、好環境を創ります」というのが当社のモットーですから、小さなことを一つずつ大切に、これから未来型の環境社会づくりに貢献していきたいですね」。

都市環境と人々の生活環境に、快適性と安全性を実現するシステムエンジニアリングをめざし、同社のさらなる発展が期待される。



冷媒ガスの回収

## 会員 企業 紹介

### 明興防水株式会社 代表取締役社長 野宮 明氏

〒983-0001 仙台市宮城野区港3-1-3 仙台国際ビジネスサポートセンター405 TEL. 022-254-1582

従業員6名 設立/63年8月 資本金/1,200万円

仙台市・港エリア、夢メッセに隣接したアクセルに、いま建設業界の大きな注目を集める企業がある。それが明興防水(株)だ。同社が開発・特許出願中の『Emax-7』(パルプセルローズ=硬化液添加材)がその秘密だ。「試験に試験を繰り返し、ようやくたどり着いたという気持ちですね」と野宮明社長。その先進性は、工法の特許取得を含め、建設技術審査証明、国交省新技術提供システムNETISへの登録などですでに認められている。

原料は製紙会社から副産物として大量に発生するペーパーラッジ(製紙かす)だ。これを繊維質(セルローズ)と無機質填料(タルク・炭酸カルシウム他)で構成されるパルフォース(繊維質物質)に加工する。再資源化率は98%にも達する。この技術で商品化されたEmax-7は、セメント・水・起泡材と混合して優れた気泡モルタルをつくり出す。その特徴は、まず自己流動性のよさ、軽量性、そして水との分離抵抗性にある。

同社では、Emaxの建設技術への応用を以下の二つに分化し、平成20年に市場投入した。技術の高度化とコスト低減などのメリットから、すでに仙台市地下鉄東西線建設などのビッグプロジェクトにも導入が決まっているという。いま量産化の準備も整い、まさに建設業界に画期的な技術革新をもたらされようとしている。

●パルフォースモルタル工法(隙間充填材)

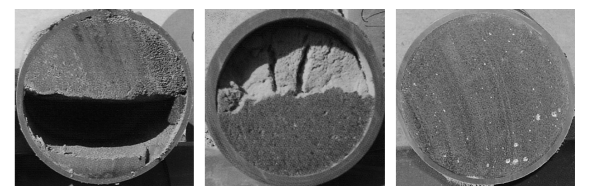
残置構造物や残置管路等の充填材、インパイプ工法やパイプルーフ管の中込材として圧入使用する工法。流動性の良さ、水との分離抵抗性に優れていることから、隙間の残らない完全な充填が可能だ。長距離圧送も可能(下写真)で、工費と材料ロスの低減を実現、耐久性にも優れている。

●ECW工法(エコロジーウォール=地中土留壁)

建設工事に伴う地中土留壁造成に導入すると、建設泥土の発生を約半分におさえ、硬化材料や用水量も30%以上削減可能な工法。全建設廃棄物の約4割といわれる建設汚泥を半分にできるため、工事に伴うトータルコストが大きく削減され、またCO<sub>2</sub>抑制にも大きな効果が見込まれている。

「近いうちに東京に進出します。この技術は大都市で活用されてこそ、大きな意味がありますから。さらに原料ということでも、行政や様々な団体を巻き込んだ広域的プロジェクトで、下水汚泥の再資源化をめざしています。見方を変えれば、いろんなものが、新たな資源になるのだと思いますね…」野宮社長はまるで研究者のように、未来環境に熱い視線を向けている。

Emax-7と拡大写真(リサイクル繊維質)



エアミルク充填(左)、エアモルタル充填(中)、パルフォースモルタル充填(右)左、中の従来工法に比べ、パルフォースでは管路が完全に充填される



代表取締役社長 野宮 明氏